

2019年5月9日

九州から日本を動かす! Move Japan forward from 九州! (77)

私が日本一のまごころ病院を目指すと言った時には、飯塚病院内の反応は鈍かったです。改善の動きが始まって良い雰囲気になり始めてはいたものの、何と言っても数年前までは「オンボロ病院の西の横綱」と評されていた訳ですから。少々ストレッチのかかっている目標ではありますが、当然到達が不可能なゴールを設定しているわけではありません。改善活動が盛んに動き始めていた時ですから、民間病院らしく動いていこうという思い入れがありました。

何とんでもスタッフには郷土愛という強いものがあります。地元飯塚を良い街にしていきたい。イメージを向上させる役割を、私達飯塚病院が担っている可能性を持っている。自分たちの活動で病院を活性化しようという意識は当院の財産です。アメリカのメイヨークリニックという世界のトップクラスと評判の高い病院は、ミネソタ州のロチェスターという飯塚市より小さな田舎町にあります。メイヨ一家がロマンや強い使命感を持ってこの町に設立した病院に、アメリカ中の医療スタッフが勤務先として行きたがります。そんな良い医療スタッフが集まる病院ですから、当然患者さんたちも、財力のある方が遠方や海外から集まっています。

開設時のメイヨー院長室は狭く、場所も一番日当たりのよくないコーナーに作っています。設立者の強い思いとして患者優先の文化が浸透しています。それが今や、「世界のメイヨークリニック」となっています。飯塚市よりも人口が少ないロチェスターにこの病院はあるのです。地方都市にあるから日本一になれないという言い訳は出来ません。むしろ、ローカルアドバンテージというものがあるように思います。その一例がコスト面にあります。診療報酬は銀座で診察を受けようが飯塚で受けようが同じ単価ですが、同じ収入に対してのコストは飯塚の方が一段と低いはずですが、ただ、ローカルには患者さんが少ないという現実があります。そこで如何にして魅力ある医療スタッフを集めるかが大事な点となります。医療スタッフが良くて、医療の質が高く、サービスも良ければ患者さんは地方にも来られると思います。そのためには、医療スタッフにとっての飯塚で働く魅力づくりが大事となります。

医療スタッフは給料が高い所に勤務先を決める訳ではありません。そこは働きやすく、症例が多く、医療事故のリスクが少なく、明るい職場であるか。あるいは、良い指導医が存在するかなどが医療スタッフにとって勤務先を決めるポイントになっているように思います。

今や、この地方都市から日本一のまごころ病院になるのは絶対に不可能と思っている人は少なくなっているとは考えますが、可能であると思っている人の数もまだまだ少ないと思います。自分たちでこの地方都市からそうしてみせようと思う人が増えるようにリードしていきます。

それが、このタイトルである「九州から日本を動かす！」という私の強い思い、希望に叶うわけで、麻生グループとして自分たちの力でこの高い目標を持って進めていきたいと思っています。

麻生 泰